

有峰におけるツキノワグマ 夏場の採食メニューについて

令和3年(2021)8月31日

報告者：有峰森林文化村 田島 敏美

有峰は、標高1000～1300mの高原盆地で、ツキノワグマの秋の重要な食料である堅果(ドングリ)をつける樹種、ミズナラとブナが分布する森林で、ツキノワグマの恒常的生息域です。2019年から2021年までの3年間にわたり、有峰におけるツキノワグマの夏場の採食メニューについて調査しました。下表(有峰におけるツキノワグマの夏場の採食メニュー)を参照

初夏の7月は、セリ科のエゾニュウやオオイタドリの根元の茎、チシマザサのタケノコなどを採食することを食べ跡や糞等のフィールドサインで確認しました。また、今年も7月にはカラマツやスギの樹木で樹皮はぎ(クマはぎ)行動をするツキノワグマを直に観察・撮影することができました。3年前より、猪根平を中心に、折立、西谷、東谷地区など、有峰の至る所でこの樹皮はぎ行動を確認しています。

今年8月10日、ミズキの実を採食するツキノワグマの親子(母熊と子熊2頭)を、間近で観察、撮影することができました。今までもウワミズザクラやナナカマドの実を採食していることも確認しています。後藤優介(元立山カルデラ砂防博物館)は、「とやまの森にすむツキノワグマ 一旬の食物を食べる」において、富山県内で10年に渡るツキノワグマの生態観察から、夏から秋にかけて様々な果実、ウワミズザクラ、ミズキ、ナナカマドを採食していることを報告しています。また、夏には、アリやハチなどの社会性昆虫を採食していること、特にアリに依存していることも報告しています¹⁾。小池伸介は、著書「森と生きる。ツキノワグマのすべて」において、初夏のクマにはアリは重要な食べ物であることを報告しています²⁾。8月30日も猪根平で、アリやバッタなどを採食するツキノワグマ親子(母熊と2頭の子熊)の様子を、確認、撮影しました。同日、日陰に生育するオオイタドリの根元に近い茎を採食している様子も確認しました。

ツキノワグマの食性は、植物質に偏った雑食性と考えられています。食料が少ない夏場、有峰のツキノワグマも、植物や動物由来の食料を上手に選択し、採食しているスペシャリストであることが観察できました。この親子熊は、ほぼ1週間のサイクルで、猪根平(標高1000m)と折立(標高1350m)を往復していることも確認しています。今後、折立での捕食対象についても調査が必要です。

一方有峰にも分布しているスイカズラ科ガマズミ属のオオカメノキ、ヤブデマリやガマズミの果実なども食材として利用しているかの調査が必要と考えています。なおツキノワグマの観察や撮影時にあたっては「相手を驚かさないようにすること」「熊と一定の距離を保つこと」に心掛けて対応しています。

参考文献

- 1) 後藤優介 とやまの森にすむツキノワグマ 一旬の食物を食べる - とやまと自然 第38巻秋の号 No.151、2015 富山市科学博物館発行
- 2) 小池伸介 森と生きる。ツキノワグマのすべて/文一総合出版

有峰におけるツキノワグマの夏場の菜食メニュー(2019～2021調査 霜鳥作成)

採食メニュー	7月	8月	9月
ミズキの実		○	○
ウワミズザクラの実		○	○
ナナカマドの実			○
エゾニユウの茎	○		
オオイタダリの茎	○	○	
チシマザザのタケノコ	○		
アリ		○	○
バッタ類(イナゴ)		○	○
樹皮はぎ(カラムツ、スギなど)	○		



ミズキを捕食する子熊(8月10日撮影)



ミズキを捕食する母熊(8月10日撮影)



ア리를捕食する親子熊(8月10日撮影)



ア리를捕食する親子熊(8月30日撮影)



樹皮はぎ中の母熊(7月4日撮影)



捕食の対象イナゴ(8月30日撮影)